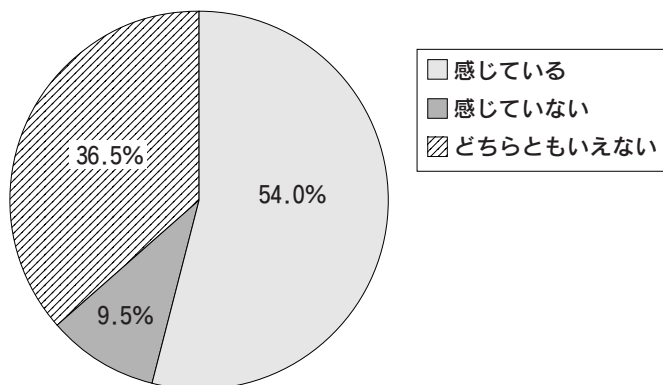


4. 職業的意識に関する状況

(1) 仕事へのやりがい

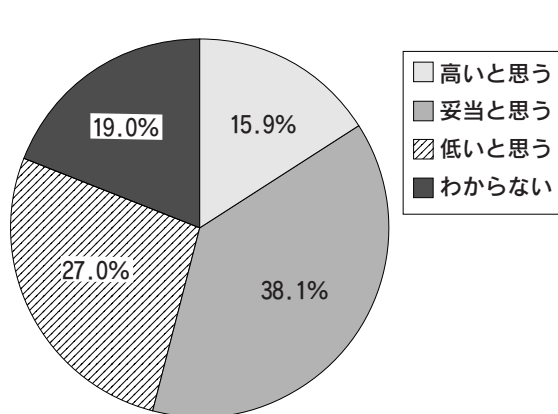
「ヘルスキーパーの仕事にやりがいを感じているかどうか」について尋ねたところ、「感じている」と答えた人は54.0%で、「感じていない」と答えた人は9.5%であった。また、「どちらともいえない」と答えた人が36.5%であった（図Ⅱ-20）。



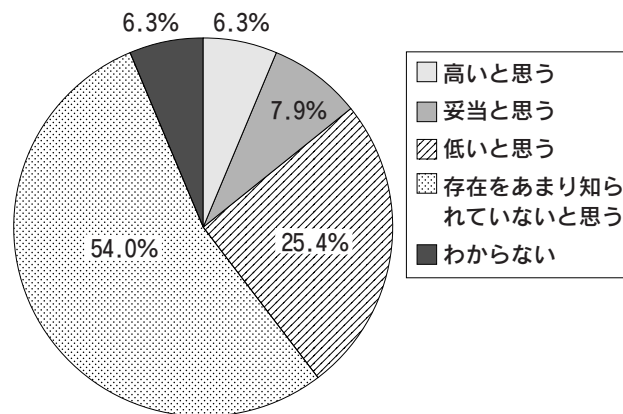
図Ⅱ-20 仕事へのやりがい

(2) ヘルスキーパーに対する評価

ヘルスキーパーに対する事業所内の評価について質問したところ、「妥当と思う」と回答した人の割合（38.1%）が最も高く、次いで「低いと思う」（27.0%）、「わからない」（19.0%）、「高いと思う」（15.9%）の順であった（図Ⅱ-21）。また、ヘルスキーパーに対する社会の評価については、「存在を知られていないと思う」が半数以上（54.0%）を占め、「低いと思う」（25.4%）が次に高い割合となっていた。「高いと思う」、「妥当と思う」に関してはそれぞれ6.3%、7.9%と低い値となっていた（図Ⅱ-22）。



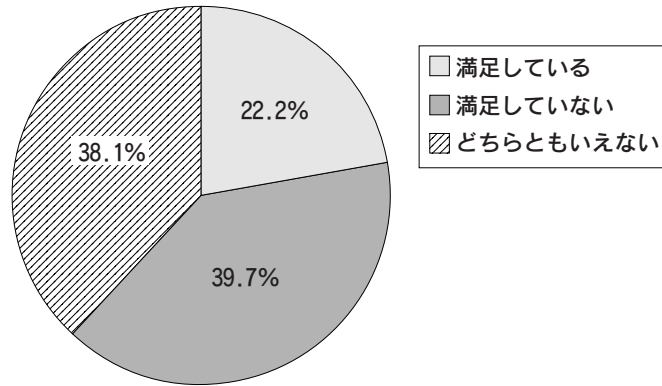
図Ⅱ-21 ヘルスキーパーに対する事業所の評価



図Ⅱ-22 ヘルスキーパーに対する社会の評価

(3) 収入への満足度

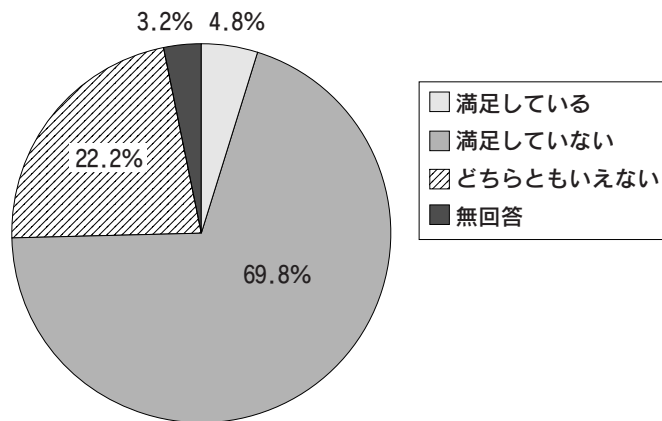
「今の収入について満足しているかどうか」をたずねたところ、「満足していない」(39.7%)、「どちらともいえない」(38.1%)がほぼ同じ程度の割合であったが、「満足している」(22.2%)についてはそれらよりは若干低かった(図Ⅱ-23)。



図Ⅱ-23 収入への満足度

(4) 知識・技術への満足度

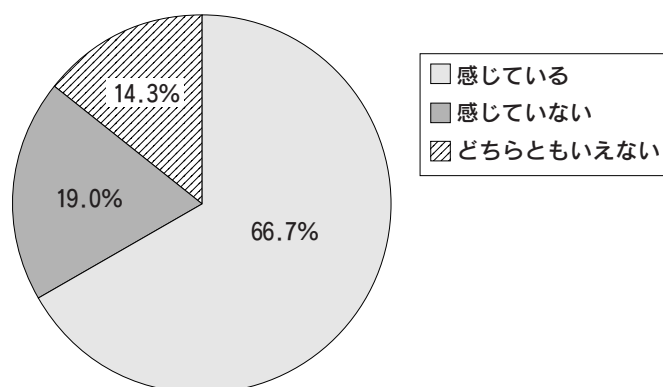
「施術者としての知識・技術に満足しているかどうか」をたずねたところ、「満足していない」(69.8%)が最も高く、「どちらともいえない」(22.2%)がその次に高かった。「満足している」についてはわずか4.8%にとどまっていた(図Ⅱ-24)。



図Ⅱ-24 知識・技術への満足度

(5) ヘルスキーパー勤務への不安

「ヘルスキーパーとして勤務し続けることに不安を感じるかどうか」について質問を行ったところ、「感じている」と回答した人が多数（66.7%）を占め、「感じていない」あるいは「どちらともいえない」と答えた人はそれぞれ19.0%、14.3%であった（図II-25）。さらに、「感じている」と答えた人について、該当する不安要因をすべて選択してもらったところ、「雇用継続への不安」（19.8%）、「昇級等キャリアアップの難しさ」（16.0%）、「施術を受けやすい雰囲気欠如」（16.0%）などが比較的多く選ばれていた（表II-6）。



図II-25 ヘルスキーパー勤務への不安

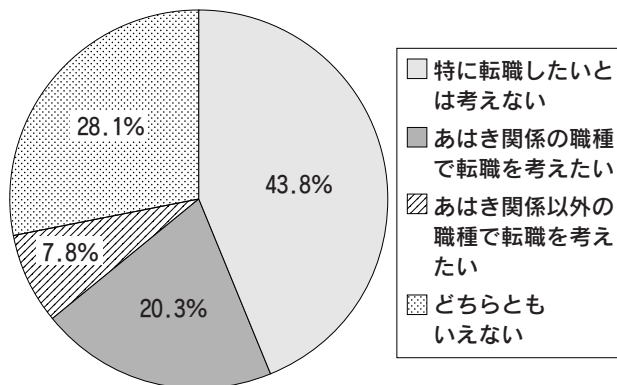
表II-6 不安要因の内訳（複数回答）

要 因	人 数	割合 (%)
雇用継続への不安	26	19.8
施術を受けやすい雰囲気欠如	21	16.0
昇級等キャリアアップの難しさ	21	16.0
技術向上の難しさ	18	13.7
人間関係の難しさ	14	10.7
施術効果に対する理解の欠如	9	6.9
適切な人的支援の不足	8	6.1
適切な作業設備の不足	7	5.3
その他	7	5.3

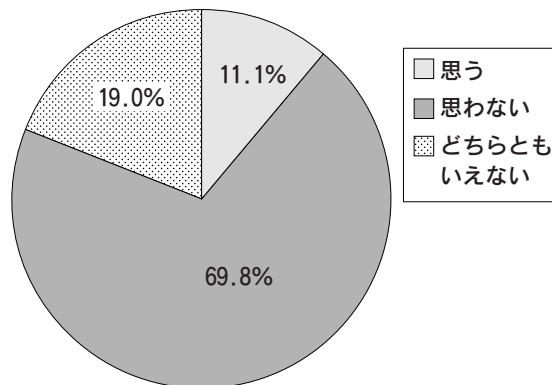
5. 将来展望と施策ニーズに関する状況

(1) 転職の希望

「もっと適した仕事があれば転職を考えたいと思いますか」との問いに対しては、「特に転職したいとは考えない」と回答した人が43.8%で最も多く、次いで「どちらともいえない」（28.1%）、「あはき関係の職種で転職を考えたい」（20.3%）が続いた。「あはき関係以外の職種で転職を考えたい」と答えた人はわずか7.8%にとどまっていた（図II-26）。また、「一般事務職等への社内異動が可能ならば希望したいと思いますか」の問いに対しては、「思わない」（69.8%）が大多数を占め、「どちらともいえない」（19.0%）と「思う」（11.1%）については少なかった（図II-27）。



図Ⅱ-26 転職の希望



図Ⅱ-27 一般事務職等への社内異動の希望

(2) 将来の勤務形態への希望

将来の勤務形態について希望するものを3つまで選択してもらったところ、「従来通り一つの事業所にヘルスキーパーとして勤務」(36.5%)、「施術所の経営」(22.2%)などが比較的高い割合を占めていた(表Ⅱ-7)。

表Ⅱ-7 将来の勤務形態への希望(三つまで)

希望内容	人数	割合(%)
従来どおり一つの事業所にヘルスキーパーとして勤務	46	36.5
施術所の経営	28	22.2
複数の事業所においてヘルスキーパーとして勤務	11	8.7
副業としての病院や医院での勤務	10	7.9
デイサービス事業と複合した業務	9	7.1
副業としての特養での機能訓練指導員業務	8	6.3
介護支援事業(ケアマネジメント)と複合した業務	7	5.6
柔整の施術と複合した業務	4	3.2
その他	3	2.4

(3) ヘルスキーパーを含むあはき業発展のために望むこと

ヘルスキーパーを含むあはき業の発展のために特に望むことについて3つまで選択してもらったところ、「臨床技能を高めるための教育や生涯研修を充実すること」(25.3%)が最も多く、以下、「疾病・症状ごとの治療ガイドラインをつくること」(17.1%)、「労働者の健康増進に関する大臣告示にあはき施術を位置づけること」(12.4%)、「在宅健康サービスの中にあはき施術を位置づけること」(11.2%)などが続いていた(表Ⅱ-8)。

表Ⅱ-8 ヘルスキーパーを含むあはき業発展のために望むこと(三つまで)

希望内容	人数	割合(%)
臨床技能を高めるための教育や生涯研修を充実すること	43	25.3
疾病・症状ごとの治療ガイドラインをつくること	29	17.1
労働者の健康増進に関する大臣告示にあはき施術を位置づけること	21	12.4
在宅看護サービスの中にあはき施術を位置づけること	19	11.2
経営力を高めるための教育や生涯研修を充実すること	11	6.5
療養費制度を充実すること	10	5.9
理療科教員養成課程を抜本的に見直すこと	10	5.9
柔整業者の保険請求審査を公正にすること	7	4.1
学校や柔整学校の新設を規制すること	7	4.1
盲学校などの理療科を高等教育機関へ昇格させること	4	2.4
広告規制を緩和すること	3	1.8
その他	6	3.5